

# 見どころ案内

町の人々に愛される銀座のシンボル

❗銀座の柳由来 (銀座1-7 先)

❗銀座柳の碑 (銀座8-9-11 先)

「銀座の柳」は1882～1887年ころ、銀座通りに植えられたのがはじまりだ。埋め立て地で水気の多い土地に、柳はびったりだった。その後、道路の拡大や震災などで何度も取りはられるが、人々の要望で復活している。

数寄屋橋公園にある大きく成長した柳。



銀座の柳由来。



銀座柳の碑。

ふたり 2人は同窓生!

❗島崎藤村・北村透谷記念碑

(銀座5-1-13 泰明小学校内)  
大学卒業後に北村透谷と知り合ったとき、島崎藤村は「生がいのなかで最も幸福な記憶」と言っているが、実は2人は、同じ年に泰明小学校に転入していた。そのとき、おたがいを知らなかっただけなのだ。

なんて書いてあるのかな?



「銀座」の名前はここから

❗銀座発祥の地 (銀座2-7 先)

現在では、銀座は華やかな町のイメージだが、名前の由来をたどると、銀貨の製造所と役所である「銀座」があった場所だった。当時の銀座は「新両替町」とよばれていた(→p.177)。

日本一の繁華街である銀座・京橋だが、町の歴史を伝えるものは数多い。残された記念碑から、昔のようすを想像してみよう。

新しく生まれ変わる歌舞伎座(2013年4月2日開場予定)。



中央区といえば歌舞伎だね

❗歌舞伎座 (銀座4-12-15)

❗江戸歌舞伎発祥の地 (京橋3-4 先)

歌舞伎といえば、歌舞伎座がまず頭に浮かぶだろう。しかし、そもそも歌舞伎が生まれた場所は中橋南側付近とされ、はっきりわかっていない(→p.62)。しかし、江戸歌舞伎が、ここ中央区から生まれたことは、まちがいない。



「江戸歌舞伎発祥の地」の碑。



新しい歌舞伎座に、歌舞伎を観に行こう!

銀座の柳に二世もあるね。



真珠の養殖に成功!

❗御木本幸吉翁

功績顕彰碑(真珠王記念碑)

(銀座4-5-5)  
世界ではじめて真珠の養殖に成功したのが、真珠の店・ミキモトをつくった御木本幸吉だ。三重県に生まれた幸吉は、横浜で真珠を見てその美しさに感動し、真珠の養殖を思いついたという。



1日では回りきれない

❗骨董商・美術商が集まる中通り (京橋、銀座一帯)

銀座・京橋は、多くの画廊があることで有名だ。江戸時代に江戸幕府の御用絵師・狩野派(→p.60)の屋敷があったから、美術関係者が集まったという。画廊にはだれでも入れるから、お気に入りの作家を見つけよう。

川底から屋上へ出世した!?

❗銀座出世地蔵尊

(銀座4-6-16 銀座三越屋上)  
銀座三越屋上にまつられる銀座出世地蔵尊は、江戸後期に三十間堀から掘り出されたといわれる。名前の由来はそのためとも、その後、毎月開かれる縁日が7日、18日、29日と、1日ずつ多くなるからともされている。



銀座出世地蔵尊のとなり立っているお地蔵様。

(左)京橋にある南天字画廊。展示してある作品は依田洋一朗さんの油絵。



(右)南天字画廊の入り口。(下)京橋東側の中通り。画廊の看板が数多くある。



今日はどこに行こうかな?



道路でお能が鑑賞できるよ!

❗金春屋敷跡 (銀座8-7-11)

江戸時代のはじめに、ここには江戸幕府がかかえる5つの能の流派の1つ、金春大夫の屋敷があった。屋敷が移転したあとも、金春の名前は、通りや銭湯の名に残っている。今では毎年夏になると、金春通りで能が演じられている。

1年に1度、夏に金春通りで行われる「能楽金春祭り」。



現在も金春の名を残す金春通り。金春湯の看板も見える。



大人気だったドラマの舞台

❗数寄屋橋の碑 (銀座5-1-1 数寄屋橋公園内)

数寄屋橋は、かつて外濠川にかけられていた橋だ。今では橋はなくなりましたが、数寄屋橋の辺りは、「君の名は」というラジオドラマと「有楽町で逢いましょう」という歌に歌われるほどの、にぎやかな場所だった。

写真左下の「数寄屋橋の碑」は、なくなった数寄屋橋の一部でつくられている。碑の後ろに立っているのは、「若い時計台」と名づけられた、岡本太郎の作品。

外濠川が埋め立てられる前にかかっていた数寄屋橋。

